

夏休み、みんなくの観覧料が無料になります！
期間 8月26日(日)まで
無料観覧についてはホームページ、電話でぜひご確認ください。

特別展

「世界の織機と織物」
織って！みて！織りのカラクリ大発見！
ヨーロッパで紀元前から使われてきた錘を使った織機、カナダの少数民族「ネネのヤマアラシ」のトゲを織り込んだ織物をはじめとして世界各地の多種多様な織機と織物を紹介します。会場の2カ所では、さまざまな織りのカラクリも体験できます。
会期 9月13日(木)～11月27日(火)
会場 特別展示館および本館1階エントランスホール

■関連イベント
◆連続講座「博物館にさわる」
▼8月11日(土)
「タッチカービングによる物指し鳥」
講師 内山春雄(野鳥彫刻家)
▼8月25日(土)「ヒトのカタチ」
講師 柴田良貴(筑波大学芸術系教授、彫刻家)
各日13時30分～16時(開場13時)
場所 第5セミナー室(先着100名)
※参加無料、申込不要
◆展示場クイズ「みんなQ」探究ひろは編
期間 8月2日(木)～8月25日(土)
場所 探究ひろは

企画展関連写真展
「写真で見る東日本大震災と被災文化遺産のレスキュー」
会期 8月21日(火)まで
会場 企画展示場
みんなく映画会 日印国交樹立60周年記念
「インド・クラシック映画特集」
▼8月4日(土)「ジャンカラパラナム」
1979年、K・ヴィシユワナート監督、テルグ語、145分
解説 寺田吉孝(国立民族学博物館教授)
▼8月5日(日)「第一の敬意」
1985年、パラーティフリージャー監督、タミル語、180分
解説 杉本良男(国立民族学博物館教授)
場所 講堂(先着450名)
※参加無料、申込不要

研究公演
「神への祈りと喜びの舞曲
—バツハからバルトークへ—」
世界で活躍しているチェリスト、ヴァイオリン、ニスト、ピアノのトリオを招き、バツハにおける舞踏的要素に注目しながらクラシック音楽と民衆文化との関わりを紹介します。
日時 9月2日(土) 13時30分～15時30分(開場13時)
場所 講堂(定員450名)

※参加無料、要申込
申込締切 8月21日(火) 必着
博導連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく
「学校と博物館をつくる国際理解教育
—新しい学びをデザインする—」
日時 8月7日(火) 10時20分～17時(受付10時より)
場所 本館2階セミナー室及び本館展示場内
【第一部】講演とミュージアムツアー
【第二部】ワークショップ
※参加無料(定員に余裕があるワークショップは、当日参加も可能です)
夏休み子どもワークショップ
夏の自由研究はこれで解決！「働く」って何？
アフリカの人々の生活をみてみよう！
日時 8月21日(火) 10時30分～16時(受付10時より)
場所 ナビひろはほか
対象 小学3～6年生(保護者同伴であれば小学1、2年生児童も参加可能)
※参加無料、要申込

「第3回現代インド・南アジアセミナー」
現代インド・南アジアの歴史学、経済学、生態人類学、文化人類学、ジェンダー研究、ツーリズム研究をそれぞれ牽引する8名の講師による連続講義です。
実施日 9月22日(土)、23日(日)、24日(月)
時間 13時30分～18時30分(予定)
会場 第5セミナー室
定員 70名
※参加無料・要申込(9月9日応募締切・先着順)

「第3回現代インド・南アジアセミナー」
現代インド・南アジアの歴史学、経済学、生態人類学、文化人類学、ジェンダー研究、ツーリズム研究をそれぞれ牽引する8名の講師による連続講義です。
実施日 9月22日(土)、23日(日)、24日(月)
時間 13時30分～18時30分(予定)
会場 第5セミナー室
定員 70名
※参加無料・要申込(9月9日応募締切・先着順)

みんなくはミナール

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
第411回 8月18日(土)
【探究ひろは関連】
ソーシャルメディアに見る人とモノの関係
講師 濱崎雅弘(産業技術総合研究所研究員)
聞き手 中村嘉志(国立民族学博物館客員教員)
参加費 無料(この期間展示を無料でご覧いただけます)
今回はこれまでとは少し毛色の異なる話題をお届けします。人と人の関係を、コンピュータネットワーク上でのデジタル作品作りの視点から考えてみます。デジタル作品と聞くと無味乾燥なイメージを抱く方も多いと思いますが、しかしそこにはモノと人、人と人との関係に依拠したモノづくりが存在します。意外に泥臭いものです。これらを近年流行のソーシャルメディアと絡めてお話しします。

第412回 9月15日(土)
【特別展「世界の織機と織物」関連】
手仕事への回帰
講師 吉本忍(国立民族学博物館教授)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要ですが)
人類史の中枢技術として位置づけられる織りの技術は、産業革命以降に人類が手仕事を放棄し続けてきたことと深くかかわっています。その歴史的経緯と現代社会が直面する危機的状況、そして、全人類の手仕事への回帰の必要性についてお話しします。



アイヌの刀を吊るす帯(エムシアン)の機織り

友の会

国立民族学博物館友の会 電話06-6877-8893(平日9時～17時) FAX06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会(大阪)
会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)
第411回 9月1日(土) 14時～15時
聖書を生きたる人びと
南部アフリカにおけるキリスト教独立教会の現在
講師 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
南アフリカやジンバブエ、ザンビアなど南部アフリカは、現在、地球上でキリスト教が最も急速にひろがっている地域です。治療儀礼など伝統的な信仰とのせめぎ合いの中で、聖書の世界を忠実に生きようとしている人びとの姿を追います。
第412回 10月6日(土) 14時～15時
【特別展開連】
世界の織機と異形の織物
講師 吉本忍(国立民族学博物館教授)
世界各地では、さまざまな織機を使って、さまざまな織物が織られてきました。今回は、それらのうちから、輪状、楕円状、管状、丸紐状、ひだ状、交叉状、フオーク状、うろこ状、袋状などの異形の織物と、それらを織る織機を紹介します。
東京講演会・食事会
第103回 9月22日(土) 15時半～17時
アフリカを食べる
講師 竹沢尚一郎(国立民族学博物館教授)
西アフリカのニジェール河流域に暮らすボソの人は、米を主食とし、副食に魚を食べるという日本と似通った食生活をしています。昔ながらのやり方で魚を追って暮らす彼らの生活を、映像を用いながら紹介します。
講演会終了後にはマリやセネガルなど西アフリカ地域の家庭料理をじっさいに味わう食事もおこないます。(食事は17時半～19時)
参加費 講演会のみ3000円(会員外5000円) ※飲物付
食事は3500円(会員外4000円)
※講演会参加含む。食事会の内容など詳細は、「友の会」まで。
会場 レストラン「カラバッシュ」
(JR浜松町駅から徒歩すぐ)
定員 40名(要申込)

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休
ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

明治ビードロ(硝子)のタンブラーと箸置き(複製刻)

室町末期に、長崎に渡来したオランダ人によって製法が伝えられたビードロ(硝子)。江戸時代にはまだまだ貴重なもので、生産技術がひろまって一般庶民の生活で使われるようになったのは明治のころになります。いまミュージアム・ショップでは、明治・大正のころの加飾手法をもとに、さまざまに再現した手づくり硝子のタンブラーを紹介します。夏の暑い時期に、涼やかなビードロで清涼感を演出してみませんか。



ビードロのタンブラー (写真左から「四つ葉」「飛線(とびせん)」「渦巻き」「かきあげ」「十草」) 各1,575円
団扇の箸置き 各945円
金魚・鮎の箸置き 各630円
価格はすべて税込

※イベントや刊行物について、くわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は9時から17時(土日祝を除く)です。

刊行物紹介

■染田秀藤・関雄二・網野徹哉 編
『アンデス世界 — 交渉と創造の力学』
世界思想社 定価：4,095円
歴史学・人類学・考古学の立場から、アンデス世界とそれにまつわる言説の創出・発展・変容過程で生じた多様なコンフリクトの真相に迫り、その歴史的意义を論じる。2009年におこなわれた阪大・民博共催の国際シンポジウムの成果刊行物。

■広瀬浩二郎 編著
『さわって楽しむ博物館 — ユニバーサル・ミュージアムの可能性』
青弓社 定価：2,100円
ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)を実現するためには何が重要なのか。多様な実践事例を挙げて、あらたな博物館像を大胆に提案します。

■広瀬浩二郎・嶺重慎 著
『さわっておどろく! — 点字・点図がひらく世界』
岩波書店 定価：924円
少ない材料から多くを生み出す「したたかな創造力」、常識にとらわれない「しなやかな発想力」をキーワードとして、点字・点図のおもしろさを紹介する「さわる文化」の入門書です。